隊員と家族をつなぐ 家族会ほっとライン

防衛省・自衛隊の衛生（全般）

防衛省 人事教育局 衛生官付　1等陸佐　三村　敬司

わが国は、戦後、最も厳しく複雑な安全保障環境に直面しているといわれております。本紙の読者の皆さまにおかれては、ご家族に自衛隊員をお持ちになっていて、この世界状況の変化を肌で感じていらっしゃる方々が多いのではないかと察します。

今回、このような機会を賜りましたので、防衛省・自衛隊の衛生が上記の環境の中でどのような方針や意図で自衛隊員に高度な医療技術の提供や救急救命体制整備を実施しようとしているのかについて説明します。

令和4年12月16日に閣議決定された防衛力整備計画には、衛生機能の変革に関する項目が含まれています。この計画では、各自衛隊がさまざまな事態や国内外の任務に対応できるよう、衛生機能を統合し、統合衛生運用を推進することが述べられています。また、防衛医科大学校を含む自衛隊衛生の総力を結集できる態勢を構築し、戦傷者の医療処置能力向上のために抜本的な改革を推進することが目指されています。

それはつまり、有事において、自衛隊員の生命・身体を救うためであります。第一線から後送先までのシームレスな医療・後送態勢を確立し、後送間救護・最終後送先となる病院それぞれの機能を強化していく必要性が明記されています。

その意図は、自衛隊員が全国どこに勤務しても、いかなる事態に際しても、安心して任務にまい進できるような衛生支援体制を整備していくというものです。

以下では、その防衛力整備計画の文脈に則って、具体的な取り組みをご紹介していきます。

まず、第一線救護については、実際に第一線で活動を行う衛生隊員に准看護師および救急救命士の資格取得を推進すると共に、これらの養成基盤の強化を計画します。

第一線救護に引き続いて実施する緊急外科手術に関しても新たに統合の教育課程を新設し、計画的な要員やチームの育成を計画しているところです。

艦艇での洋上外科手術についても、航空後送間救護についても、その能力を向上させる目的で教育訓練の環境をこれまで以上に充実させていきます。その教育訓練では各自衛隊間での共通化、統合化を推進し、共通の知識・技能の向上を意識しています。

南西地域における衛生機能の強化に当たっては、自衛隊那覇病院の機能および抗たん性を拡充することが有効と考えられることから、同病院の病床の増加、診療科の増設、地下化等の機能強化を進めていきます。

その他の後送先となる自衛隊病院についても、建替えなどの機会を捉え、同様の機能強化を追求します。

衛生機能自体については、各自衛隊で共通する機能が多いため、衛生資器材の整備については、各自衛隊間の相互運用性を考慮して共通化を推進します。

また医療・後送に際して必要となる各自衛隊員の医療情報を自衛隊病院等において陸上自衛隊・海上自衛隊・航空自衛隊の軍種の区別なくタイムリーに取得できるよう、隊員の身体歴情報を電子化し、負傷した各隊員の医療情報を速やかに検索・閲覧できる態勢を整える準備を実施しています。

野外手術システム（師団、旅団用）

戦傷医療における死亡の多くは爆傷、銃創等による失血死であり、これを防ぐためには輸血に使用する血液製剤の確保が極めて重要であることから、自衛隊において血液製剤を自律的に確保・備蓄する態勢の構築について検討しています。

また、血液製剤と並び戦傷医療において重要な医療用酸素の確保のため、酸素濃縮装置等についても整備を計画しています。

防衛医科大学校においては、最新の医療技術の進歩が著しい中、戦傷者の医療処置能力を向上させるための教育研究の強化を進めています。

防衛医科大学校病院は実際の医療現場となるため、医官や看護官に対して高度な医療教育を行い、衛生科隊員の技術向上を図るとともに、戦傷者の受け入れにも対応できるよう、病院の運営に大幅な改革を行っています。さらに、病院の建替えなどの機会を利用して、機能の強化を目指しています。

輸送機から救急車への搬送イメージ

それを補完するものとして、医官および看護官の部外研修についてもその確保に努めております。

現在も防衛省・自衛隊の衛生では上記の項目について鋭意具体的な計画を策定し実施しているところです。

わが国を守る自衛隊員たちが安心して勤務できるような衛生救護体制を確立することを目標に、担当部局は文字通り総力を結集して速やかな実現を果たせるよう努力してまいりたいと考えています。この記事がきっかけとなり、読者の皆さまのご理解がさらに深まれば幸甚です。

長崎県

3年ぶりに総会を開催

浦田会長の勇退　新会長に前川氏就任

3年ぶりに開催された総会全景

5月18日、長崎県自衛隊家族会は家族会総会を3年ぶりに大村市コミュニティセンターで開催しました。

昨年までは、常任理事までの少人数での開催でしたが、今年は理事を含め久しぶりの大人数での開催となりました。来賓に地元大村東彼防衛協会会長代理・大村商工会議所会頭・中村人久様、長崎地方協力本部長・伊藤圭一1等海佐をお招きし、来賓代表として伊藤圭一1等海佐からごあいさつをいただきました。

総会では永年、県自衛隊家族会の顔としてご活躍いただいた浦田正会長が勇退され、新会長として前川要次氏（前県家族会副会長）が就任されました。

浦田前会長は今後、県家族会の顧問として、引き続きご活動いただくことになりました。あわせて、横尾博道事務局長も退任され、新事務局長として、吉田良三氏（前県家族会会計）が就任されました。

総会終了後、4年ぶりに県内の各基地の部隊長や家族支援担当者、先任曹長を交えた意見交換会を開催し、多くの参加者の笑顔を拝見することができました。

今後も長崎県自衛隊家族会は隊員に最も身近な存在であることに誇りを持ち、力を合わせて自衛隊を支える組織として活動していくことを誓い合いました。

（長崎県自衛隊家族会　前事務局長　横尾　博道）

中和地区（奈良県）

4年ぶりに対面での総会を開催

新体制構築とコロナ禍後の計画承認

令和4年度事業報告などを審議

奈良県中和地区家族会は5月20日、広瀬和希奈良地方協力本部長を来賓に迎え、県家族会長および会員23人が参加し、4年ぶりに対面での総会を開催しました。

永らく県家族会に尽力された会長が急逝、新体制構築、コロナ禍で停滞した事業計画の作成が急がれていましたが役員の選任、コロナ禍後における事業再開を見据えた計画および予算案が原案通り承認されました。

一方、役員の高齢化・なり手不足の常態化による役員の減少など組織の脆弱性が露呈され、後任の育成など可及的速やかな対策が求められました。

総会後、荻原洋聡（元八戸航空基地隊司令）氏による防災講演会を開催。「災害は忘れたくてもやってくる」、公助・共助の他、自身で災害に立ち向かう応災の重要性、防災教育の在り方などが伝えられました。

防災グッズも披露され、イザという時に使えるように普段から使用する必要性を説き、披露された液状化実験も東日本大震災の経験に基づく内容で分かり易く好評のうちに終了。近年、当県では南部の多くの山地で土砂災害が頻発、南海トラフ地震も危惧されており防災に対する関心は高く意義ある講演会となりました。

（奈良県自衛隊家族会　会長　河本　順雄）

東京都

東京都自衛隊家族会定期総会を開催

森山新会長の下で初会合

5月28日、東京都自衛隊家族会はホテルグランドヒル市ヶ谷で令和5年度の定期総会を開催しました。

総会の冒頭、今年4月に就任した森山尚直会長が「自衛隊家族会は、会員一人一人の自衛隊員である家族を思う気持ち、寄り添う気持ちを原点として、その気持ちを組織的にしたもの。また、その気持ちは家族が奉職している国を守るという仕事の重要性の深い理解とその理解の輪を広げていく活動に帰結すると思っている。会員一人一人の思いを大切しながら、会長の務めを果たして参りたい」と述べた後、令和4年度の事業報告や令和5年度の事業計画などが審議され了承されました。

第1師団長による講話

総会後に実施した第1師団長（兒玉恭幸陸将）の防衛講話では、ウクライナ侵略を多面的に分析しながら、もしもわが国で戦争が起きた場合、どのように行動することが「日本のために戦うことになるか」について、具体的かつ示唆に富むお話をいただきました。

その後の懇親会は、兒玉第1師団長、東京地方協力本部長（山下博二陸将補）、東京地方協力本部協力10団体の会長等、国会議員を含む賛助会員も参加し、賑やかな交流の場となりました。

国内外情勢がより一層厳しさを増す中、公益社団法人として、自衛隊を支えるための活動をより一層、会員一丸となって進めることが大切だと再認識した総会となりました。

（東京都自衛隊家族会　理事　菊池　章倫）

滋賀県

令和5年度定期総会を開催

総会を通じての結束の深化

会長から表彰状を授与

滋賀県自衛隊家族会は、6月10日に滋賀地方協力本部の支援を受け、令和5年度定期総会を開催しました。

通常は協力本部の所在地で行われていましたが、今年度は初めて草津地域事務所管内の「栗東芸術文化会館さきら」で行われることとなりました。

当初は参加予定者が少なく、再度総会への参加を呼びかけを実施しました。

総会の議事は、家族会運営に功績のあった方々に家族会会長から表彰状が授与されることで始まりました。

また、参加者からは活発な意見が出され、今後の活動の参考になると期待されています。

休憩後には、滋賀地方協力本部本部長から記念講演「わが国を取り巻く安全保障環境」が行われ、無事に閉会しました。滋賀県自衛隊家族会は総会を通じ一層結束を深めました。

（滋賀県自衛隊家族会　事務局長　宮田　冨也）

家族会長等奮戦記　74

岡山県自衛隊家族会　会長　山本　育子

岡山県家族会の活動の多様性と結束力

昨年5月29日に岡山県家族会総会で会長を拝命しました。

家族会に参加したきっかけは、瀬戸大橋の開通した1988年に息子が入隊したことでした。

その時に父兄会に入会し、翌年には地区の会計になり、岡山県家族会理事になって20年余り…。その後、県の事務局長を5年経験して昨年から会長に。この間なんと35年!!　自衛隊家族会と共に歩んできました。家族会の活動は私にとってかけがえのないものです。

岡山県家族会の特徴は、階級や出身学校に関係なく同じ立場で自由に発言できる温かい風土があることです。隊員を支援していく上で階級は必要なく、皆平等だという考え方があります。これは岡山ならではの素晴らしい文化だと思います。また、この文化は大切にしていかなければならないものだと思います。

岡山県には陸上自衛隊駐屯地が2カ所と、岡山地本4カ所の地域事務所があります。地域事務所単位で家族会を4ブロックに分け、各ブロック長が家族会副会長を兼ねています。

岡山県家族会の多くの活動内容のうち主なものを紹介します。

○自衛隊家族支援協定締結　10年来の念願であった家族支援協定は、コロナ禍で進展していませんでしたが、日本原駐屯地と地元家族会との協定は締結し、安否確認訓練は駐屯地主導で始動していました。安否確認訓練が容易になるように家族会会員名簿の様式を改定したり、隊友会の方々と会議を重ねたりして、家族会、日本原・三軒屋の各駐屯地、岡山地本、隊友会の5団体で3月5日に協定を締結しました。協定締結が家族支援の第一歩と感じ、身の引き締まる思いです。

○入隊・入校予定者激励会&演奏会　家族会・防衛協会・隊友会・雇用協議会の共催で今年4年ぶりに岡山市民会館で開催されました。3月5日の開催日まで岡山地本の主導の下、昨年9月から今年2月まで7回の実行委員会で会議を重ねました。

当日はスクリーンを利用して部隊研修や総会など、日々の活動状況や「問い合わせ窓口」などについて説明しました。

○総会　令和4年度総会は会員限定で開催し、防衛講話を岡山地本長の谷坂忠俊1等陸佐にお願いしました。コロナ禍にあって、書面決議は令和2年の一度だけで総会への出席は各地区長のみに制限して開催しました。今年度は5月21日に自衛隊関係者、関係団体の方にも参加いただき、懇親会も開催しました。

○ブロック会議　隔年でブロック長主導の下、地区会員・事務局長・理事・各地域事務所長などが集い、顔をあわせて疑問点・提案などを話し合います。今年度は自衛隊等と家族支援協定締結を控えていたので「家族支援とは?」や安否確認方法やボランティア保険の活用、また、家族会会員証が会員であることの証明になることを説明し、多数の方が保険に加入され、また会員証発行の申請をされました。

○会報「ももたろう」　毎年1月1日付けで発行、1年かけて記事を集めています。各ブロックから地区の行事などの記事や写真を提出してもらい、8月から11月まで4回の編集会議を開き、広告と記事の募集や編集などを行っています。ここ3年はコロナ禍で行事が少なく記事集めに苦労しました。すべて会長、事務局長を含めた編集委員と会員の手作り新聞です。

○その他　この他、中国地区ブロック会議や中国・四国地区自衛隊協力団体長会議を開催し、それぞれの意思疎通に努めています。また、県・各地区家族会では岡山地本の協力を得て、地域の方を招いての防衛講演会開催、会員以外の方も交えての各自衛隊駐屯地等の慰問研修、各駐屯地や各協力団体主催行事に積極的に参加するなどの活動をしています。

教育隊学生からのメッセージ

おやばとは今年も陸・海・空自衛隊の教育機関に入校中の学生の声を集めました。新しい環境で同期と訓練に取り組む前向きなメッセージが届きました。家族を思う気持ちにも心打たれます。

陸上自衛隊

心の支えになる自衛官になります。自分に厳しく、人に優しく、強く美しい自衛官になります。

自衛官の基礎を学び、充実した毎日を同期と頑張ってます。困っている人を笑顔にできる自衛官になってみせます。育ててくれた恩を忘れず、同期と切磋琢磨して頑張ります。

山本　麗奈　北海道留萌市
野沢　智子　青森県三戸郡
仲根　大翔　茨城県水戸市
平岡　七斗　島根県出雲市
浅田　怜仁　福岡県糸島市

海上自衛隊

立派な自衛官になるために日々努力します。自慢の息子と思われるよう、精進します。入隊して約2カ月、自衛官として誠実に努めています。8月の終業式、ハンカチを忘れないでください!国民の人々に笑顔を与える自衛官になります。

神崎　一夏　京都府舞鶴市
鈴木　皓太　青森県むつ市
加藤孝太郎　宮城県石巻市
加藤　夕葵　広島県福山市
西柳　凜　鹿児島県鹿児島市

航空自衛隊

誰一人見捨てることなく全員で完遂する!同期と切磋琢磨し、日々成長しています。周りの方々への感謝の気持ちを持って!立派な自衛官となれるよう頑張っています。同期と協力し日々の訓練を頑張っています。

白井　美優　奈良県葛城市
寶石　海斗　鳥取県米子市
髙野陽南子　宮崎県高鍋町
佐々木一輝　宮城県石巻市
三木　翔太　埼玉県入間市

愛媛県

定期総会　懇親会

通常スタイルで開催

通常スタイルと新体制下で総会を開催

愛媛県自衛隊家族会は、6月4日に東京第一ホテル松山で令和5年度定期総会を開催しました。

令和2年度と令和3年度は新型コロナウイルス感染症拡大のため書面決議となり、令和4年度の総会は縮小規模で行われました。

しかし、今回は4年ぶりに通常スタイルでの総会を開催することができ、会員一同は大いに盛り上がりました。

総会は、昨年三好前会長から森川新会長にバトンタッチした新体制の下で行われ、森川会長からのあいさつで総会の冒頭がスタートしました。森川会長は家族会の方針「私たちの信条」の重要性と目標達成のために会勢拡大を強調しました。

その後、岸岡西条市地区会長が議長を務め、議事が進められました。越智事務局長と岩城監事が議案説明を担当し、全会一致で議案と報告が承認されました。

休憩後の第2部では、記念式が行われました。4年ぶりに国家斉唱が行われた後、殉職隊員と物故会員に黙祷が捧げられ、さらに表彰式も行われました。

続いて、横田防協副会長の乾杯の音頭で4年ぶりの通常スタイルの懇親会が開催され、小原隊友会会長の中締めで終了しました。

今回の総会は、会長をはじめとする会員一同が新たな気持ちで臨んだものであり、これからも家族会としてさまざまな活動を充実させていくための重要なイベントとなりました。

（愛媛県自衛隊家族会　事務局長　越智　泰司）

神奈川県

令和5年度定期総会を開催

新体制で新年度事業を推進

5年度の事業計画などを承認

神奈川県自衛隊家族会（小松龍也会長）は、6月10日にかながわ労働プラザで令和5年度定期総会を開催しました。今年は3年ぶりに制限を設けず、多数の参加者が集まりました。また、家族支援において緊密な関係を築いている神奈川県家族支援主導業務隊の武山駐屯地業務隊からも2人のゲストをお招きし、交流を深める機会となりました。

総会では、小松会長のあいさつに続き、議案の審議が行われました。議案審議終了後には、家族会の発展に大きく貢献した14人の方々に会長表彰が授与され、その功績が称えられました。

令和4年度の事業報告と決算報告が行われ、参加者からの承認を得ました。さらに、令和5年度の事業計画と予算計画も満場一致で承認されました。最後には役員選任も審議・承認され、中條祐介氏を新会長とする新体制で新年度の事業を進めることが決まりました。

中條新会長を含む新たな役員一同は既に十分な準備を進めており、自衛隊部隊との交流や激励事業、家族支援協力などの事業計画を着実に実行するための具体的な計画を進めています。今後の活動予定や成果は、昨年立ち上げたホームページやSNSを通じて広く共有されます。

神奈川県自衛隊家族会は、会員の積極的な参画をお願いしています。皆様と共により一層の発展を遂げるため、活動を進めていきます。

（神奈川県自衛隊家族会　副会長　杉田　慎治）

編集後記

▽1面、募集協力強調期間が今月から開始されます。募集が厳しい環境下、身近な情報を地本などにお寄せ、ご支援ください。▽同じく1面、（公社）自衛隊家族会は昨年に引き続き総会・理事会と新たに意見交換会を開催。特に、意見交換会では各テーブルで参加者間で活発な交流が見られました。▽2面に航空自衛隊とドイツ空軍の共同訓練の記事。印象的で実りのある訓練だったとの記述です。▽3面「論壇」では広島G7での外交成果と今後の課題についてまとめていただきました。中国の停戦仲介により中露の合体を防ぐとの論に注目を。▽8面、新シリーズ、自衛隊の医療や救急救命体制整備について論述します。まずは防衛省全般、次に陸・海・空についても掲載を予定しています。▽8面、学生からのメッセージもご一読ください。